

こころの救急箱 通信 第8号

発行：特定非営利活動法人 こころの救急箱 2015年2月

〒540-0003 大阪府中央区森ノ宮中央 1-16-17-708 号

事務局：電話・FAX：06-6942-9092

e-メール：cocorono9090baco@kpa.biglobe.ne.jp

URL：<http://www1a.biglobe.ne.jp/cocorono9090baco/index.html>

相談電話：06-6942-9090（月曜日夜8時～火曜日朝3時）



『自然乾燥の力』

兵庫県児童虐待等対応専門アドバイザー

島田妙子

子どもの頃に幼稚園のかけっこで思いきり転んだ事があります。
膝小僧がずるむけになり血が出て痛くて悲しくて泣いた。
この痛みだけは、その時は誰にも分からない。

大丈夫？」「痛そう」と声をかけてもらうけど最大に痛い時にはそんな声も聞こえない。
傷口を水で洗ってくれようとしても水さえも染みて痛いのだ。
消毒液を塗られるのですが、それだって痛くて泣き叫んだ記憶があります。

たいそうにガーゼに包帯まで巻いてもらい、家に帰ったけれどお風呂がまた地獄。
数日経っても、傷口を見るのがイヤだから毎日包帯を巻いてもらっていたけれど、いつまで経っても治らない。
その頃には「大丈夫？」「可哀相に」という言葉が何だか嬉しくなってきましたが、傷口はじゅくじゅくと膿みだしたのだ。

その時、父が「もう治る！大丈夫や」と言って、嫌がる私の膝に巻かれた包帯とガーゼを外して膝をペチンと叩いた。泣きながらそのまま眠ってしまいましたが、翌日の朝には少し乾燥して痛みが治まっていた。父が笑っていた。

その後、傷はあっという間に治りました。人の心もこの傷口に似ているなと思っています。結局最後は、自然乾燥が一番、自分の足で立ち上がる事が出来るのだと……。傷口を洗いもせず、消毒もせずに包帯を巻いて巻きっぱなしにしている事が一番こわいですね。それぞれの包帯を取って自然乾燥してもらえたらいいですね。